

事務事業名	施設管理事務(中村分館分)				担当	教育委員会 生涯学習課 中村分館	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名		
施策名	1	生涯学習の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和60年度~)	
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	3. 公民館費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度( 年度~ 年度)	
事業概要	中村分館は地域住民の健康増進と連帯感の醸成を目的として昭和60年に設置された。各種の講座や研修等の事業を行い多様な学習の機会を提供するほか、生涯学習の拠点として施設の貸館を行い年間約2万人が利用しており、施設維持管理業務をシルバー人材センターや専門業者へ委託している。 施設概要: 本館679.9平方メートル、多目的ホール694.8平方メートル、敷地16,551平方メートル						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 31年度実績 宿日直業務、ゴミ処理、清掃、各種設備の保守点検等の業務をシルバー人材センター及び専門業者に委託したほか、多目的ホール照明交換や避難誘導灯の修理など設備の補修を適宜実施するなど適正な維持管理に努めた。 また、貸館の実績は、本館及び多目的ホールを併せて1,233件、20,140人である。  2年度計画 前年度と同じ	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	管理業務委託件数	件	11	11	12	12	12
	イ							
	ウ							
	エ							
	オ							
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 中村分館の施設・設備。	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	会議室等の面積	平米	679.9	679.9	679.9	679.9	679.9
	イ	体育館(多目的ホール)面積	平米	694.8	694.8	694.8	694.8	694.8
	ウ							
	エ							
	オ							
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 安全快適な生涯学習の場を提供する。	⑦ 成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	会議室等利用者数	人	10,133	9,813	8,378	10,277	9,650
	イ	体育館利用者数	人	9,420	8,827	8,437	9,863	9,136
	ウ							
	エ							
	オ							
④ 結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 安全快適な学習の場を提供することにより生涯学習の推進を図る。	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	会議室等利用者/市民数	%	12.8	12.0	10.2	12.6	11.8
	イ	体育館利用者/市民数	%	11.9	10.8	10.8	12.1	11.2
	ウ							
	エ							
	オ							

(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	428	462	407	338
	一般財源	千円	9,136	10,385	10,971	11,185	
	事業費計(A)	千円	9,564	10,847	11,378	11,523	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	280	280	280	280
		人件費計(B)	千円	1,163	1,162	1,167	1,132
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,727	12,009	12,545	12,655	
							13,032

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	昭和60年に地域住民の健康増進と連帯感醸成を目的として中村農村環境改善センターを開設するとともに公民館中村分館を併設した。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	施設の老朽化が顕著になっているほか、自然災害による敷地内外樹木の倒木被害を防止する必要がある。 平成31年4月より中村農村環境改善センターから真岡市公民館中村分館に施設名称を変更。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	利用者より施設・設備の老朽化に対する改修要望が寄せられている。